

令和5年度 自己評価書

学校名

北海道清水高等学校

1 本年度の重点目標

- 授業改善により学ぶ喜びを感じさせ、次の学習への意欲を引き出す学習環境を構築する。
- 生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む生徒指導を実践する。
- 夢を持たせ、その実現に持続的に取り組ませる進路指導を推進する。

2 学校自己評価結果及び改善方策

(A:3.1以上 B:3.0～2.8 C:2.7以下)

大項目	中項目	番号	具体的評価項目	自己評価	○実践したこと ●今後の改善充実に向けた方策
教 育 活 動	学習指導	1	○開設科目、「探究」の充実と検証「エナジード」の効果的活用に向け、年次団と協力し、企画運営を行えたか。	2.7	C ○エナジード教材を活用した授業を実施し、総合的な探究の時間の授業の質が向上した。複数年次合同による発表会を実施した。 ●今後もエナジード教材の活用を円滑に進められるよう、教員間での情報共有も意識していく。現在は探究活動の指導方法やままとの論文の形等において、検討中である。
		2	○観点別評価研修の充実と教科内での共有生徒、保護者、教員の意向を把握し、観点別評価のより良い活用を模索できたか。	3.1	A ○観点別評価の研修において、過去の観点別評価の割合をもとに、「ABCの基準の見直し」「評価向上のための指導方法」の検討を働きかけた。 ●今後も継続して、基準の見直しと指導方法の改善していく。 生徒との情報共有を行い、学習意欲を高める指導と評価のあり方を追究する必要がある。
		3	○ICT実践事例の教科を横断した試行ICT端末を効果的に活用する授業を行うために、計画的に校内研修を実施できたか。	3.3	A ○放課後研修を含めて複数回の校内研修を実施できた。 ●今後は授業実践を参観しあうことを含めた研修を実施するなど、横断的な取組の働きかけをしていきたい。
	生徒指導	4	○自律に向けた生徒会への継続した指導新しいルール等に生徒が自覚と責任をもち、自律した活動をするよう指導できたか。	2.6	C ○清水高校の生活心得を新しい内容に整理し、教員、生徒に配布し確認することで、自律した活動の中で自覚と責任を持たせる指導について実践を進めた。 ●今後も生徒・保護者の意見を聞きながら、改訂した内容の指導実践を検証し、生徒へのアプローチ、指導の考え方について生徒指導部をはじめふれない指導について各年次、生徒会、保護者の意見を聞き対応する。
		5	○生徒の意向を把握、検討する体制の整備学校課題に生徒が主体的に取り組めるよう改正の在り方等を明確に示せたか。	2.6	C ○生徒の主体的な活動につなげられていない。 ●生徒会、各委員会活動の指導について指導担当の教員と連携を図り、充実させる。
		6	○部活動等の加入率を高める取組の実施各部局の活動について生徒に周知し、活動への意欲を持たせることができたか。	2.6	C ○加入への呼びかけ等は行ったが、部への加入率を高めたり、活動を活性化するには至らなかった。 ●放課後の活動に対応できる顧問の配置、スクールバスの放課後、土日の増便など活動を後押しできる方策を検討する。
	進路指導	7	○「他者に働きかける力」の向上キャリア発達評価アンケート結果の更なる検討を行い、具体的方策を示せたか。	3.0	B ○アンケートの結果を全体に示し、各年次・分掌において「集団において他者に働きかける力」の育成を課題として取り組んだ。9月に再度アンケートを実施し、該当の項目のポイントがアップしていた。(経年比較をするためにアンケートの質問項目は当面変更しない。) ●個人の結果を指導に落とし込むことの検討が必要。クラス指導における担任、副担任がいかに関わっていくか検討したい。
		8	○「探究」の充実に向けた教務部との連携「エナジード」の効果的活用に向け、教務部と調整、積極的運用を行えたか。	2.6	C ○インターンシップに係る発表を実施した。 ●インターンシップの事前事後学習の充実、まとめる書式の事前周知等、目的や取り組むことの事前周知を徹底し、より効果的活用をしていく。教員の情報共有も大切である。
	健康・安全指導	9	○生徒会活動を導入した健康指導の実施感染症予防の学びを、学校生活での健康・安全への取組につなげることができたか。	3.2	A ○一人ひとりの健康安全指導や意識付けを、HR担任、保健室、生徒会、委員会活動などで実施した。 ●主体的な委員会活動を進めるために生徒会執行部、各委員会の委員長への働きかけを高める取り組みを進める。
		10	○「つなぐ」が基本的教育相談体制構築年次・サボ委・教務部等の連携を迅速に行い、効果的な対応を行うことができたか。	3.2	A ○欠時の増えてきた生徒情報の共有や、サポート計画について組織的に対応することができた。 ●今後も、状況が分かり次第の早めの対応・組織的な教育相談や面談を実施し、担任や年次が連携をとりやすい対応を継続していく。
学 校 運 営	信頼される学校づくり	11	○生徒による定期的な情報発信生徒の情報発信を推進し、本校の現状や生徒の思いを地域に届けことができたか。	2.9	B ○一日体験入学の進行などを生徒主導により実施した。地域への発信について、校内の情報発信は計画的に実施できなかった ●分掌をはじめとして、情報発信についても計画段階から意識した取組をしていく。
		12	○地域内企業等との連携強化十勝西部地区の関係機関等に足を運び、積極的な情報発信を行うことができたか。	3.0	B ○中学校訪問、清水町中央公民館講座(2講座)、総合学科通信「彩雲」の発行ができた。ハローワークや十勝教育局との連携を引き続き行っており、得た情報は生徒(特に就職に関係する生徒)に提供した。 ●対外的な情報発信は総務の業務と考えるが、新規開拓の面から、進路指導部も積極的に情報発信に努めていく。
	組織運営	13	○テーマ設定による定例職員会議の実施組織改革に向けた取組を見える化し、計画的に職員会議を開催することができたか。	2.9	B ○企画調整会議、職員会議の運営、記録 ●効率的に会議を進めていくためにも、資料等を早めに案内していく。
		14	○ICT推進部原案の積極的試行運用校務削減に向け「ICT推進部」の試行案を積極的に導入することができたか。	3.2	A ○朝打・月間行事等、情報共有にICTを活用できた。各種調査のICT化を進めた。分掌内のClassroom活用や来客・試験予定の共有にGoogleカレンダーの活用は、有効であった。紙での配布が不要なものについては、データでの配布に置き換えることができた。 ●例えば教科での活用は教務部が行うなど、担当を明確にしていこう。会議、打合せ、連絡の効率化を向上させるため、資料等を早めに案内していく。
	教職員の資質向上	15	○清高キャッチコピー活用の充実清高キャッチコピー作成に向け生徒、職員が取り組み、校内外で活用できたか。	3.1	A ○学校案内パンフレットやポスター等で活用できた。生徒会活動で、キャッチコピーに関する動機付け、意識付けできる場面で活用できた。校長をはじめ、機会を見て繰り返し生徒に意識させることができた。 ●中学生と保護者への宣伝として、職員玄関等の設置などを検討する。継続して、キャッチコピーへの関心、動機付けや活動を推進していく。
		16	○ミニ研修実施による迅速な情報提供校外の素晴らしい実践例をタイムリーに周知、研修、共有することができたか。	2.9	B ○ICT研修・教科研修等で情報共有ができた。情報の連絡のみとなった研修もあった。ICT推進部によるミニ研修は有効であった。 ●進路部が実施したような研修だけでなく、定期的に先生方が意見や悩みを表明できる機会を企画していけるとよい。